

## 特別講演 1

# 「心房細動患者の抗凝固療法について ～脳外科医の立場から～」

市立敦賀病院 副院長

新井 良和 先生

ビタミン K 拮抗薬ワルファリンは、心房細動患者に対する心原性脳塞栓症予防のための唯一の経口抗凝固薬として、50 年以上も用いられてきた。これに対して、2011 年以降現在まで 4 つの直接経口抗凝固薬（direct oral anticoagulants : DOAC）が登場し利用可能となった。DOAC はその大規模臨床試験からワルファリンと少なくとも同等な脳卒中予防効果があり、頭蓋内出血が半減するとの成績が得られたことから、心房細動患者に対する抗凝固療法の普及率を確実に向上させた。しかし DOAC の歴史は浅く、実臨床では様々な背景を有する患者が服用することになることから解決すべき課題も多い。心房細動患者の脳塞栓症と頭蓋内出血、どちらもファーストコールで呼ばれる脳外科医としての立場から、心房細動患者に対する抗凝固療法について私見を述べたい。